

# 「歯科で禁煙支援」徐々に

たばこの健康被害が世界的に知られるようになるにつれ、国内の喫煙人口は年々減少。新型コロナウイルス感染症を巡り、世界保健機関（WHO）が喫煙者の重症化リスクを指摘したこともあり、禁煙への意識はこれまでにも増して高まっている。こうした中、喫煙は歯周病や虫歯の進行にも関わるとして、歯科での禁煙支援が少しずつ動きだしている。四日から、歯と口の健康週間。

（編集委員・安藤明夫）

## 問診経て外来を紹介

ガラス瓶の中には、黒くドロドロとした液体が二百ミリほど。「一日二十本を一年間吸った人が取り込むタールの量を示しています」。愛知学院大短大教授の稲垣幸司さんは説明する。次に取り出したのは、健康へのリスクを知ってもらう目的で、喫煙者の口腔内をパッケージにした海外のたばこ。タールが沈着して歯や歯肉が黒ずんでいる。禁煙推進の活動に取り組む稲垣さんは、これらを教材に使い、歯科医師や歯科衛生士の卵たちに、日々、たばこの害を説いている。

厚生労働省によると、習慣的にたばこを吸う人の割合は二〇一八年、29・0%、女性は8・1%。三十年でそれぞれ26・3%、1・3%減少した。同省のた



喫煙によるリスクを警告するサインとオーストラリアのたばこのパッケージ

稲垣さんが中心となり、日本歯周病学会は一八年、

## 歯周病や虫歯予防にも

「歯周治療における禁煙支援の手順書」を作った。歯周病患者のうち喫煙者に対し、まずは喫煙が口腔疾患に与える影響を説明。その後、問診票を記入してもらって効果的な禁煙方法につなげる内容だ。

問診票は「朝、目覚めてから何分で最初の一本を吸うか」から始まり、喫煙量や喫煙歴、これまでに試した禁煙方法、喫煙への意識などを三十五の質問を通して把握。回答を得点化し、身体的な依存度が高いと判断すれば、禁煙外来の紹介を検討する。内科や循環器科、心療内科などさまざまな診療科に設けられている禁煙外来は、禁煙を助ける貼り薬や飲み薬を処方し、禁煙中の離脱症状などにも



1日20本を吸う人が1年に取り込むタールの量を示す稲垣さん＝名古屋市千種区の愛知学院大歯学部で

対応する。喫煙期間やニコチン依存度などの条件が合えば健康保険を使え、約三カ月の治療で自己負担額は一万数千～二万円だ。

依存度が高くない場合は本人のやる気を見ながら、繰り返し助言する。禁煙する気がない人には、禁煙外来があることなど簡単な情報を提供▽関心を持っていて患者には喫煙のリスクや禁煙のメリットを具体的に

## 「指導」は診療報酬の対象外

日本内科学会、日本歯周病学会など医科・歯科領域をまたぐ禁煙推進学術ネットワークは二〇一〇年、毎月二十二日を「禁煙の日」と制定。同ネットワークの提言を受け、大学歯学部

愛知県歯科医師会は一九九年、会員を対象に喫煙・受動喫煙に関するアンケートを実施。全員の41%にあたる千六百七十七人から回答を得た。それによると、たばこの害の説明や禁煙支援を実施している人は5・1%。

伝えて意欲を高める▽すぐに禁煙をしたいと考えている人には具体的な方法を伝える」という具合だ。

「口の中は外に開かれた消化器。喫煙が全身の健康をむしばむ前、患者の体が健康なうちに治療で何度も関わられるのが歯科の特徴」と稲垣さんは指摘。「歯科医師と、禁煙指導で中心となる内科医らが連携することが命を守る」と訴える。

歯周病患者の喫煙を「患者の自由ゆだねるべきだ」という回答も42・1%に上った。一方で、自身が吸っている人は11・5%。以前は吸っていたがやめた人は45・5%と、歯科医師の禁煙は進んでいることをうかがわせた。調査を担当した瀬川伸広理事は「『喫煙』ニコチン依存症」という認識を歯科医師に定着させることが大事」と話す。

県と県歯科医師会とは昨年度、受動喫煙の防止などを定めた改正健康増進法の今年四月施行を前に、歯科医

つなごう 医療